

平成19年度千種高等学校 学校評価(内部評価)

学校教育目標	重点目標
恵まれた自然環境とともに、地域に根ざす伝統・文化、産業を教育活動に生かし、個性が輝く体験や実践をとおして”美しい兵庫”をめざす、こころ豊かな人間関係を育み、自ら考え、自ら学び続ける人間を育成する。	1. 地域に貢献し、地域に支えられる学校をめざす。 2. 日本一小さい高校としての利点を活かし特色ある教育実践に取り組む。 3. 教科指導力を高めるため気力・知力・魅力をモットーに授業に取り組む。 4. 「アクティブ」を見直し、内容を充実させるべく工夫を図る。 5. 生徒会活動等の特別活動を通して生徒の自主性をはぐくむ。

A・・よくできた B・・できた C・・あまりできなかった D・・できなかった 回収枚数 13枚/13枚

領域	評価の観点	評価項目	番号	実践目標	最も多い評価と人数	昨年度
学校運営	学校運営全般	学年・学級経営	1	学校教育目標達成に向けた学年・学級の具体的経営方針を立て、その実施に努力する。	B (8)	B (12)
			2	生徒の資料、指導・実践の記録等を蓄積し、教師間で情報交換を行う。	B (8)	B (9)
			3	学級委員の効果的な活用による、明るく活発な学級経営を行う。	C (8)	C (6)
			4	美化に心がけ、学習環境を整える。	B (9)	B (11)
			5	朝の打ち合わせ事項を生徒に確実に徹底する。	A (6) B (6)	B (7)
		6	適切な年間計画に基づき、充実した学校行事を実施する。	B (9)	B (9)	
		校務分掌	7	教職員の適正・能力に応じた分掌に基づき、分掌間の連携を円滑に行い、有機的に機能するよう努める。	B (12)	B (9)
			8	それぞれの分掌における重点目標を年度当初に設定し、適宜、取組について評価・見直しを行う。	C (6)	B (8)
	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	9	学校のホームページを通じて、学校の情報を可能な限り公表し、月に1度は内容を更新する。	A (8)	A (13)
			10	学校だより等を発行し、保護者に学校の情報を提供する。	A (8)	A (11)
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	11	学校評議員委員会を学期に1回以上実施し、各委員から出された意見を吟味し、次学期の学校運営に反映させる。	B (7)	B (7)
			12	学校評議員に授業や学校行事に参加していただき、それについての意見を聴取し、授業や行事の改善に役立てる。	C (8)	B (7)
		学校施設や教育資源の地域への開放	13	学校施設を定期的に地域の活動のために開放する。	A (7)	A (8)
	PTCA活動	PTCAとの連携	14	学校行事への積極的な参加・協力により学校教育目標の具体化を図る。	A (8)	A (7)
			15	保護者対象の授業参観や合同研修会を計画・実施し、ともに生徒理解に努める。	B (6)	B (6)
			16	地域で行われる行事等に積極的に参加・協力する。	A (6)	B (10)
			17	総会・役員会・委員会・学校行事等に参加できなかった保護者に対して情報を提供するとともに、意見を収集する。	B (8)	C (7)

学校運営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	18	いつでも授業公開ができる体制を整える。	B (7)	B (10)	
		計画性を持った研修の実施	19	進路・教務・生徒指導等、学校の課題について校内研修を計画的に立案する。	C (7)	B (7)	
			20	教員が計画的に校外での研修を受ける体制を整える。	C (7)	C (6)	
		21	長期社会体験研修や、初任研・年次研修の社会体験研修等を活用し、社会の変化に対応できる教員の育成に努める。	C (8)	C (7)		
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	22	学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制の整備に努める。	B (7)	B (9)	
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	23	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を推進する。	C (6)	B (8)	
		教員の実践的な研修・訓練	24	マニュアルに基づき、不審者の侵入などの危機的事態への適切な訓練を行う。	C (8)	C (9)	
	学校独自項目	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程	25	総合・アクティブ類型を設置し、その教育目標・教育課程・年間計画を明確にする。	A (7)	B (7)
				26	学校設定教科・科目や多様な選択科目を設定し、興味・関心に応じた特色ある教育課程を編成する。	B (8)	B (8)
27				地域人材・有識者等の特別非常勤講師を招聘し、類型の特色化を推進する。	B (7)	A (8)	
外部講師の活用		28	地域人材・有識者等の外部講師と詳細な打ち合わせを行い、効果的な運用を図る。	B (9)	A (8)		
		29	生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、発展的な学習活動を展開する。	B (8)	B (8)		
各種資格取得		30	英検・漢検・家庭科技術検定・秘書検定・ワープロ検定・危険物などの資格取得をめざす。	A (6)	A (10)		
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	31	インターンシップやふれあい育児体験等の体験的な学習や、問題解決学習を推進する。	B (8)	A (9)	
			32	教科会議などを中心に体験的・問題解決的な学習の指導法を研究し、実施する。	C (7)	C (7)	
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	33	ゴルフ場やスキー場等の地域民間施設との連携を図り、多様な学習機会を設定する。	A (9)	A (8)	
	生徒の学力の把握と評価基準の設定	34	入学時に入学生の学力を客観的にはかるテストを行い、その結果に応じて習熟度別授業や少人数指導などの指導方法を工夫する。	B (9)	A (7) B (7)		
		35	各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。	B (8)	B (7)		
	基礎・基本の定着	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	36	小・中学校の授業を参考にしたり、各教科で授業研究会をおこない、生徒の興味・関心を呼び起こす指導を工夫する。	C (7)	C (6)	
			37	成績不振生徒へ適切な計画に基づき指導する。	B (9)	B (8)	
			38	各教科の専門部会や県立教育研修所が主催する研修会に積極的に参加し、魅力的な授業づくりの工夫をする。	C (9)	B (6) C (6)	

教育課程	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	39	総合的な学習の時間についての委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立てる。	C (8)	C (6)
			40	生徒の興味、関心、適性を把握し、そのニーズにあった学習テーマを設定し、全教員が取り組むための連携がとれている。	B (7)	C (6)
		創意工夫を生かした実践の展開	41	コンピューター等を利用した探求活動や、表現活動の場を設定する。	B (5) C (5)	B (6)
			42	各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。	B (8)	B (7)
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	43	評価方法について全職員で各教科の評価に対して意見交換を行う。	B (6)	C (4)
			指導形態の工夫	44	英語・数学・国語で習熟度別授業や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行う。	B (9)
		45		各教科で個別指導、グループ指導、一斉指導などの効果的な指導形態を研究実践する。	B (8)	B (9)
	特別活動	自主的・実践的な活動の活性化	46	委員会活動やHR活動の充実に努め、生徒会活動を活性化する。	B (8)	B (7)
			47	クラブ活動などを通じて個人を伸ばさせ、好ましい人間関係をつくるよう工夫。	B (7)	B (9)
		ボランティア活動	48	ボランティア活動の意義を理解させ、実践をとおして自己を高める意欲と態度を養う。	A (6)	B (8)
			49	P T A、教職員、地域住民、生徒で学校周辺の環境美化に努める。	A (6)	A (5) B (6)
	生徒指導	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	50	年度当初に生徒指導方針を明確に職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認する。	C (6)
生徒の内面の理解を図る指導の工夫				51	各学期に1回以上の個人面談を実施するとともに、家庭と密接な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行う。	B (9)
			52	キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解を図る指導方法の共有を図る。	A (6)	A (9)
			生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	53	生徒会が設定した課題について、生徒会を中心に討論会をもち、生徒の自立の意識を高める。	C (10)
54				生徒会行事については、実行委員会を設置し、生徒が企画・運営を行う。	C (6)	B (7)
地域や関係機関と連携した安全な学校づくり			55	地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、不審者情報等を共有する。	C (7)	C (7)
			56	P T Aと連携し、登下校のマナー指導を月に1回行う。	C (9)	C (6)
進路指導	進路指導	進路指導体制の充実	57	3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	B (7)	B (8)
			58	進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対策を検討する。	C (7)	B (8)
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	59	外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高める。	B (10)	B (8)
			60	「進路ニュース」等の発行により、生徒・保護者に進路情報を提供し、進路への意識を高める。	B (7)	B (4) C (4)
		主体的な進路選択能力の育成	61	L H Rや総合的な学習の時間等で、生徒に自らの生き方なり方を考えさせる。	B (10)	B (7)

課題教育	人権教育	人権教育推進体制への取組	62	3年間を見通した人権LHRの充実を図り、計画的に実施する。	C (8)	C (6)
			63	年度末に人権教育推進部を中心に、年間の人権HRの実施内容などを検証する。	C (6)	B (7)
		確かな人権意識の育成	64	人権HRにおいて、「HUMAN RIGHTS」を有効に活用する。	B (6)	B (11)
			65	人権HRや生活体験発表会において、生徒の身近な問題から人権を相互に尊重し合う態度を育てる。	C (7)	B (9)
		図書教育	図書教育の充実	66	図書室を充実させ、読書指導や学習指導の場として有効に活用する。	C (6)
	67			図書館の計画的利用のための年間計画の作成と生徒会係活動の活発化。	C (10)	C (11)
	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	68	実質的な防災訓練を行い、意識の高い訓練を行う。	B (9)	B (11)
			69	救急救命講習の受講により、いかなる時にもまず生徒の命を守るという教職員の意識と技術を高める。	B (10)	B (8)
		実践的な安全教育への取組	70	生徒会・運動部等を中心に、救急救命講習会を実施する。	B (8)	B (5) C (5)
			71	家庭・関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。	C (7)	C (7)
	情報教育	情報活用能力の育成	72	教科「情報」を中心に生徒の情報活用能力の育成を図る。	B (10)	B (9)
			73	適切な研修により、情報機器の適切な取り扱いと、情報ネットワークの創造的な活用法を身につける。	B (9)	B (6)
		情報モラルの育成	74	情報や情報通信技術が果たしている役割や影響を理解し、情報発信に伴う責任など情報モラルを育成する。	B (8)	B (7)
			75	人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等の重要性について考えさせる。	C (7)	B (7)
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	76	「総合的な学習の時間」等において、国際的視野を持ち、異文化を理解し尊重する態度を育成する。	C (7)	B (8)
		交流事業の推進	77	A L Tや地域に住む外国人の協力を得たりなどして、外国人とのコミュニケーション能力の養成に努める。	C (7)	B (8)
	環境・福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進	78	講演会の実施や、福祉に関するLHRの機会をもち、課題研究のテーマ設定につなげていく。	C (9)	B (5)
			79	命の大切さや思いやりの心など福祉に対する心、福祉への理解、福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てる。	B (6)	B (6)
環境・保全活動等の推進		80	奉仕活動等の場を活用し、ゴミ・リサイクルなどの身近な環境問題に対する継続的な取り組みを工夫する。	B (6)	B (5) C (5)	
	81	環境の保全やよりよい環境の創造にかかる責任と役割を理解させ、課題解決に向けた実践的態度を養う。	B (8)	C (11)		
施設・設備について	施設・設備の整備	82	生徒の生活の場として、安全で快適な教育環境を整備する。	B (10)	B (7)	
		83	日常の安全対策を含めた施設・設備の安全管理体制の整備。	B (10)	B (7)	

○ 分析による成果と次年度への課題

- 1 学校運営全般的に昨年より評価が下がり気味であった。これは、学校が落ち着いてきたことにより、教職員の間には安堵感のようなものが生まれ、全体的な取組に緊張感が欠けたのではなかろうか。とすれば、厳に反省すべきである。その中で、PTCA活動の項目は、昨年よりさらに評価が上がった。本校は地域との連携なしに独立存続はあり得ないことが、全職員の意識の中に浸透してきていると思われる。
- 2 ボランティア活動の評価が高くなったのは、昨年同様ボランティア部や生徒会の地道な活動が認められたことと、機会が増えて活動が目立つようになってきたことも評価につながったと言える。
- 3 学校設定科目「アクティブ」に対しては、昨年の反省を受け、意欲的に取り組んだ結果であるが、一方で特別非常勤講師の方との役割分担が曖昧になった。
- 4 授業面では、生徒に授業アンケートを実施したこともあって教師の意識が向上し、いつでも授業を公開する体制が整いつつある。
- 5 その一方で、すべての教科についていえることであるが、昨年からの課題となっていた、教科指導力の向上を図る方策を検討する機会がとれなかった。

○ 分析による成果と次年度への課題

- 1 学校運営全般的に昨年より評価が下がり気味であった。これは、学校が落ち着いてきたことにより、教職員の間には安堵感のようなものが生まれ、全体的な取組に緊張感が欠けたのではなかろうか。とすれば厳に反省すべきである。その中で、PTCA活動の項目は、昨年よりさらに評価が上がった。本校は地域との連携なしに独立存続はあり得ないことが、全職員の意識の中に浸透してきていると思われる。
- 2 ボランティア活動の評価が高くなったのは、昨年同様ボランティア部や生徒会の地道な活動が認められたことと、機会が増えて活動が目立つようになってきたことも評価につながったと言える。
- 3 学校設定科目「アクティブ」に対しては、昨年の反省を受け、意欲的に取り組んだ結果であるが、一方で特別非常勤講師の方との役割分担が曖昧になっていた。
- 4 授業面では、生徒に授業アンケートを実施したこともあって教師の意識が向上し、いつでも授業を公開する体制が整いつつある。
- 5 その一方で、すべての教科についていえることであるが、昨年からの課題となっていた、教科指導力の向上を図る方策を検討する機会がとれなかった。